臨地実習からその先へ

◎宮城 脩子、宮井 優[1)]、古谷 仁志[1)]
京都保健衛生専門学校[1)]

（はじめに）

臨地実習では、7 部署の検査室で様々な体験・見学を通し、深い学びを得た。また実際の医療現場で多くの臨床検査技師の先生方に出会ったことで、自身が目指す臨床検査技師像を考えるようになった。

（目的）

臨地実習の全日程を通して体験・見学した実習の概要を報告する。また実習前後の病院検査室の印象の変化、臨床検査技師がどうあるべきかを考察し、目指す臨床検査技師像になるためにどのような努力が必要かをまとめる。

（実習の概要）

感染症検査室、病院病理部、生理検査室、生化学・免疫検査室、血液検査室、一般検査室、輸血・細胞医療部の各部署での体験・見学から学んだ内容をまとめる。

（実習前後の印象の変化）

・臨地実習前…大学病院には様々な疾患の方が集まるため、学会発表が盛んなイメージがあった。大規模病院は検査室が独立していて交流が少ないのではないかと考えていた。

・臨地実習後…実際に様々な症例を見学する機会に恵まれ、貴重な体験ができた。部署異動の可能性もあり、スペシャリストでありジェネラリストの要素も求められている。

（臨床検査技師がどうあるべきか）

患者情報を的確かつ迅速に臨床の現場に提供する技術を身に付け、患者への配慮や他の医療従事者との連携など円滑な関係を築ける能力が必要。スペシャリストかつジェネラリストの要素も求められるため、幅広い知識が必要となる。さらに知識を応用させ、「どのような機械があれば患者のためになるのか？」など創造力を持つことも医療貢献の一助になるかもしれない。

（どのような努力が必要か）

専門分野を確立できるよう、上位の認定資格取得を目指す。さらにチームのために自身のスキルを磨く努力し、コミュニケーション能力を養う必要がある。

（結語）

臨地実習を通して様々な体験をし、尊敬する臨床検査技師の先生方に出会えた。自身の経験を生かし人の役に立てる臨床検査技師になれるよう、目標に向かって邁進していきたい。

連絡先 075-801-2571／miyai.kyoho@gmail.com（京都保健衛生専門学校 宮井）